アプリケーション スペシャリスト		研修コース群	1 3 4	: 丁基 本 1	I 基 本 2		2 B	システム開発基礎		ダシップ基礎	ュニケー	ネゴシエー ション基礎	£	シ ス テ ム ム 段 計	システム構築	システム運用/保守	基礎・ジステム要件定義技法	ロジサルティングメソド	基礎・エクト	ブットのリー ダシッアプリケー ションスペ	ケーション アプリケーションスペ	ション ションスペアプリケーションストのネゴシエー	新技術動	・ヨ・加引 インダストリアプリケー最新ビジネス動向	- - -	技術基			要素技術上級			システム設計上級	テム構築上級	システム開発メソドロジ		ジジ
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	八八門	パーソナルスキル人門	ジニア	ブログラミングの基礎 アプリケー ション開発の	タベースの基礎	ネットワークの基礎	ティ	- ダシップ基礎	ュニケーシ	ネゴシエーション基礎	(業種共通)	主要アプリケーション設計 (インダストリ)	ム 構築	システム運用/保守	基礎インダストリ業務知識の		基礎・エクト	ブシャリストのリー ダシッアプリケー ションスペ	ケーション アプリケーションスペ	ション シャリストのネゴシエー アプリケーションスペ	新技術動	インダストリアプリケー 最新ビジネス動向		素技術基	技術 ブラットフォームの要素	術ス テム	ー タベー スの要素	ネットワークの要素技術システムの要素技術	キュリティの悪	業務システム設計上級	業務システ	業務システム運用/保守	務バッケー ジ基礎	バッケージ
業務分析		システム価値の検証 - IT価値の定義 - IT価値管理のフレームワーク構築 インダストリ知識																																		
業務分析		・インダストリ共通アブリケーションに関する知識の活用・インダストリ国有アブリケーションに関する知識の活用・インダストリビジネス動向、技術動向、競合状況の把握・インダストリ用語、関連法規の把握と活用																																		
業務分析		・インダストリ別事業環境の把握と活用 ・インダストリ別ピジネス慣行の把握と活用 ・インダストリ固有業務内容の把握と活用 業務要求分析 ・コーザニーズの把握																																		-
業務分析		・ニーズの分析と優先順位付け 技術要件分析 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・																																		
		・ニースの分析と優先順位付け コンサルティング技術の活用 ・一般設定 ・データ収集																																		
業務分析		・インタビューの実施 ・セッションの運営 ・データ分が運営 ・持証 ・コミュニケーションとネゴシエーションの実施 ・報告書の作成 情報化と経営																																		
業務分析		1時4枚に企産は ・位業会計 ・経営工学 ・エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野にお ける情報システムの活用 ・関連法規の理解と遵守																																		
業務分析		システム化戦略策定 ・ユーザのビジョン、ゴール、ビジネス戦略の把握 ・システム化戦略の策定 ・業務パッケージを利用したシステム化戦略策定																																		
業務分析		ビジネスプロセス分析、設計技法 ・現行ビジネスプロセスの分析、把握 ・新ビジネスプロセスの分析、設計 ・ビジネスプロセス分析手法の活用と実践																																		
業務分析		ブラットフォーム要件定義 ・CPU能力の見積 ・伝送室の見積 ・伝送室の見積 ・トランザウション量の見積 ・レスポンスの見積																																		
テクノロジ		システムブラットフォーム技術 ・オペレーティングステム技術の活用と実践(メインフレー ム、分散機(オフコン)、UNIX、WINDOWS、Linuxなど) 最新技術動向								1																										_
テクノロジ		・最新ノードウェア技術動向の把握 最新ミドルウェア技術動向の把握 最新ネットワーク技術動向の把握 ・最新ネットワーク技術動向の把握 最新データペース技術動向の把握 最新データペース技術動向の把握																																		
テクノロジ		・最新システム管理技術動向の把握 最新業務パッケージ動向 ・最新業務パッケージ連携動向の把握 ・最適業務パッケージ選定																							1											
ソフトウェアエンジニアリング テクノロジ		技術問題解決手法 ・技術問題解決手法の活用と実践 コンピュータ科学基礎 ・情報の基礎理論																																		-
テクノロジ		・データ構造とアルゴリズム コンピュータシステム ・ハードウェア ・基本ソフトウェア																																		
テクノロジ		・システムの構成と方式 ・システムの システムの開発環境 ・システム開発手法 ・ラステム開発手法 ・ラステム開発手法																																		
		ネットワーク技術の理解と活用 ・プロトコルと伝送制御 ・符号化と伝送 ・ネットワーク関連法規																																		
テクノロジ		・ネットワークセキュリティ ・通信機器 ・インターネット ・ネッドワークソフト ・イヌM (Asynchronous Transfer Mode) ・フレームリレーやLAN、WANなど回線に関する技術 ・TC P / IP																																		
テクノロジ		データベース技術 ・データベースのモデル ・データベース言語 ・データベースの制御																																		
テクノロジ テクノロジ		データベース設計 ・データベース論理設計 ・データベース物理設計																																		
ソフトウェアエンジニアリング		トランザクション処理とデータベースの同期点の関係 セキュリティとブライバラ セキュリティ対策(概密保護、改ざん防止対応、不正侵人、コ ンビュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対 ボ、ソーシャルエンジニアリング) ・プライバン保護																																		
ソフトウェアエンジニアリング		・リスク管理 ボイドラインと関連法規 標準化 情報と取引のプロセスの標準化 情報システム基盤の標準化 ・データの標準化 ・標準化組織の形態、活用 情報化と経営																																		
業務分析		開放化と、磁温 ・位業会計 ・経営工学 ・エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野にお ける情報システムの活用 ・関連法規の理解と遵守																																		
ソフトウェアエンジニアリング		監査 ・システム監査の基礎 ・システム監査の計画 ・システム監査の実施と報告																																		
テクノロジ		インターネット技術 ・インターネットの歴史 ・VM e L 同間 する技術 ・メールに関する技術 ・暗号化技術 ・デジタルメディアに関する技術(VoIP、Streaming, QoS など)																																		
テクノロジ		ブログラミング音語、マークアップランゲージ・(、C、C + +、COBOL、Java、UML、HTML、XML などの各種言語 ・表記法の特徴・グラフィカルな開発環境の使用法																																		
テクノロジ		ミドルウェア技術 ・・メッセージング技術 ・・インターネット技術 ・・分散オブジェクト管理 ・・ディレクトリナーピス ・トランザクション処理																																		
テクノロジ		リレーショナルデータベース管理システムの基本機能・ ・リレーショナルデータベースシテムの基本構造 ・システムカタログの保持機能 ・関係テ ブルの取り出し、格制会実得機能 ・デ タベ ス利用要求の解釈機能 ・デ・デ タベ スパックアップリカバリ 機能 ・デ・デ タベ スパックアップリカバリ 機能 ・インテグリア・機能機能																																		
テクノロジ		最新江市場動向 ・国内外のIT市場規模と動向の把握 ・アプリケーションに関わる技術動向の把握と活用 ・ビジネス特許に関わる技術動向の把握と活用 ・次世代のモビジネスとその発展の把握と活用 システム管理性が新																																		
テクノロジ		・システム資産監視技術 ・プロセス監視技術 ・プロセス監視技術 ・プロセス監視技術 ・プロセスとでは、																																		
テクノロジ		ブラットフォーム技術 ・ハードウェアアーキテクチャ ・ストレジ管理 ・オペレーティングシステム								1																										
テクノロジ		・通信制御 ・トランザウション処理・分散処理・並列処理の把握と活用 製品知識(ブラットフォーム) ・プロセッけ、記憶表音、印刷装置、オペレーティングシステム 、データペースシステム、トランザウションシステム、ミトル ウェアの評価と識定・ システム管理手法																																		_
テクノロジ		・サービス水管管理 ・																																		
テクノロジ		データベースマネジメントシステム(DBMS)の選定 ・データベース製品の評価、選定 データベースマネジメントシステム(DBMS)の導入								1															-											Ħ
		データベース製品の導入、設定 データベース開発における重要技術 ・分散データベース ・データベースセキュリティ ・分散コンピューティングシステム								+				+																						

1/4

アブリケーション スペシャリスト		研修コース群	3	I T 基 本 1	基本 2		İ	システム開発基礎		リー ダシップ基礎	コミュニケー ション基礎	ネゴシエー ション基礎		システム設計	システム構築	システム運用/保守	基礎インダストリ業務知識の	ステム要件定	ロジ	ト基礎・アクトマネジメン	ヤブリリ	ケーションケーションスペ	ションションストのネゴシエー	空行	ソダー!	最新ビジネス動句	1 技 : 術 · 基			要素技術上級			システム設計上級	ム構築上級		テム開発メ	業務バッケージ基礎業務バッケージ製品別
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	八八門	パーソナルスキル入門	ジニア	プログラミングの基礎 ション開発の	ータベースの基礎	ネットワークの基礎	ティ	リー ダシップ 基礎	コミュニケー ション基礎	ゴシエーシ	ステム設計の	主要アプリケーション設計(インダストリ)	要アプリケーステム構築	システム運用/保守	基礎	ステム要件	ロジロンサルティングメソド	ト基礎・アーマネジメン	プシア ヤブ リリケ	ケーションシャリストのコミュニアプリケーションスペ	ション アプリケー ションスペ	新姑	インダストリアプリケー	最新ビジネス励句		技術 ブラットフォームの要素	術ステム管理基盤の	1 7 1	ットワー クの要	ステムの要	セキュリティの要素技術業務システム設計上級	業務システ	上級業務システム運用/保守	ロ業 ジーン ステム	業務パッケージ基礎業務パッケージ製品別
テクノロジ		データベースの周辺技術 ・データウェアハウス、オンライン分析処理、データマイニン グ、オブジェクト指向とデータベース、インターネットとDBMS																																			
テクノロジ		データベース関連技術動向 ・オブジェクト制のデータベース ・オブジェクトリレーショナルデータベース ・ER P とデータベース ・S C M とデータベース ・C C R M とデータベース ・E C と データベースの把握と活用																																			
テクノロジ		ネットワーランステムの技術動向・ ・大規模系ネットワーキング(プロード/ジンドSDN、光ネット 電話用かーブル、無線ネットワーク、基幹側 技術動向の把握 ・満塩(本) NDDB、ギガビット・サネット技術動の心理 ・適信サービス(ギガビット・イサネット大統領)の把握 ・地域・F網)技術動向の把握																																			
テクノロジ テクノロジ		ネットワーク製品知識 ・ネットワーク製品知識の活用 ネットワーク標準 ・ネットワーク標準 ・ネットワーク標準の把握、適用																																		#	
テクノロジ		・ネットワークを実いたほと、週内 ネットワークシステムの実装技術 ・ネットワークプロトコル、電気通信サービス、ネットワーク機 器と装置、ネットワークサービス、イントラネットやエクストラ ネット																																			
テクノロジ		サーバ配置手法 ・サーバ配置手法の活用と実践 アプリケーション実行方式																																		#	
テクノロジ		- Webアブリケーション方式、分散コンピューティング方式の 把握と活用 サーバ技術 ・HTTPサーバ、アブリケーションサーバ、負荷分散サーバ技 術の把握と活用																																		+	+
テクノロジ		負荷分散と可用性 - 負荷分散 (ハードウェア、ソフトウェア) - クローン - クラスタリング - ネットワークの二重化																																			
テクノロジ		分散コンピューティング開発環境 ・分散コンピューティング開発ツールの活用と実践 ・サーブレット、JSP、JavaBeans等の分散コンピューティン グ開発環境、標準、ツールの活用と実践 ・開発ツールの活用と実践																																			
テクノロジ		・デアリケーシン開発と異と特性の把握と活用 ユーザインターフェース技術 ・Webプラウザ技術の理解と活用 ・グラフィカルユーザインターフェース技術の理解と活用 ・情報システムのアクセサビリティ機能				+														+											\dashv					+	+
テクノロジ		・情報システムのアクセサビリティ機能 アプリケーションセキュリティ ・アプリケーションセキュリティ機能の設計、開発、導入 セキュリティ技術の理解に活用 ・シングルサインオン技術 ・PKは技術 ・ドセキュリティアドミニストレーション技術																																		+	
テクノロジ		- 侵入防止技術 - 暗号化技術 - 電子圏名技術 - マアマウォール技術 セキュリティ技術動向 - シングルサインオン技術動向の把握																																		_	
テクノロジ		・PRは技術動向の把握・セキュリティドミストレーション技術動向の把握・侵入防止技術動向の把握・開着化技術の把握・活用・電子署名技術の把握・活用・ファイアウォール技術の把握に活用 セキュリティシステムの実装、検査																																			
テクノロジ		・セキュリティ製品、ツールの選定、導入 ・セキュリティシステムの開発 ・セキュリティ技術の実装 データモデリング																																			4
テクノロジ テクノロジ		・データモデリング技法の活用と実践 ・データモデリングツールの選択と活用 データベース運用設計 ・パフォーマンス設計、障害対策																																		_	+
ソフトウェアエンジニアリング		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・																																		+	
デザイン		- 案件の優先順位付けと関連部門の調整 ・要件調査の実施 ・要件の優先をできた。 ・要件の最終となる化 ・資源要求の調査 ・システム化計画の策定																																			
デザイン		インダストリパッケージ開発環境設計 ・開発環境要件の定義 ・ブラットフォーム選定																																			
デザイン		開発環境設計 ・ 開発環境要件の定義 ・ プラットフォーム選定 ・ アータベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 ・ データベース、ミドルウェア、分散コンピューティングの選定、 機能と影的事項の理解、設計 インダストリパケケージ設計																																		<u> </u>	
デザイン		・最適インダストリバッケージ選定 ・インダストリバッケージ機能および制約事項の理解 ・インダストリバッケージを利用したアプリケーションデザイン の実践 モデリング技法の理解と活用																																		_	
デザイン		・デ・タモデリング技法の活用と実践・・プロセスモデリング技法の活用と実践・・パフォーマンスモデリング技法の活用と実践・・プロトタイピング技法の活用と実践・・プロトタイピング技法の活用と実践・・ペンテマーキング技法の活用と実践																																			
ソフトウェアエンジニアリング		技術検証手法 ・プロトタイピング・・シミュレーション ・モデリング 競計手法 ・オブジュクト指向設計																																		_	_
ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェアエンジニアリング		・構造化設計 ・データ中心型設計 開発手法 ・開発手法の選定 ・開発手法の選定 ・円銀手法の活用と実践 ・ワネーターフォール型、RAD型、スパイラル型 ・業務1ケケーン国有の開発手法																																			
ソフトウェアエンジニアリング		開発支援ツール - 開発環境 - 各種ADツール - 構成管理ツール - デバッガ、シミュレータ等 プログラミング技術																																			
ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェアエンジニアリング		- 各種プログラミング言語技術の活用と実践 プログラミング言語 ・C、C++、COBOL、Basicなど各言語の特徴 ・グラフィカルな開発環境における開発				+																									+					+	+
ソフトウェアエンジニアリング		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・																																			
ソフトウェアエンジニアリング		再利用手法 ・ソフトウェア部品の利用 ・先行プロジェクトの成果物利用 ・現利用干法の活用と実践 セキュリティシステムの実装、検査																																		+	+
ソフトウェアエンジニアリング		- セキュリティ製品、ツールの選定、導入 - セキュリティシステムの開発 - セキュリティ技術の実装 外部設計				+														-											\downarrow					\downarrow	_
ソフトウェアエンジニアリング		- 外部設計の手順 - システム機能設計 - データモデルの設計 - 外部設計書の作成 内部設計 - 機能設計																																		+	+
ソフトウェアエンジニアリング		・インターフェース設計 ・付第一子の設計 ・サブコンポーネン・の識別、役割定義 ・サブコンポーネント間の関係定義 ・内部設計書の作成 オブジェフ・指向同第 ・オブジェフ・指向の基本概念																																		+	_
ソフトウェアエンジニアリング		・UML ・イオジェクト指向開発プロセス・分析、設計、実装・主なイブジェクト指向開発プロセス・・ 主なイブジェクト指向技術・プログラムの設計																																		+	_
ソフトウェアエンジニアリング		- 開発手法とブラットフォームの選定 ・プログラム設計基準 ・プログラム設計画の作成 ・テスト計画と仕様の作成 ・野な計画が正明																																		\perp	_
ソフトウェアエンジニアリング		検証技法の活用 ・ウォークスルーとインスペクション コンサルティングメソドロジの選択と活用 ・コンサルティングメソドロジの選択と分析				+																									-					+	+
コンサルティングメソドロジの 活用		- コンサルティングメソドロジの選定と適用 - プロセスの変象と実践 - 成果物の定義と作成 - コンサルティング技術の適用 分析ツールとモデルの理解と活用 - 事実フィフサイクル(導入期、成長期、成熟期、衰退期)モデル																																		+	_
コンサルティングメソドロジの 活用		プロダクトボートフォリオマネジメント(PPM)モデル 経験カープ - 3C分析 - 5WO1プが - 7Sモデル - マイケル・ボーターの5Forcesモデル - パリューチェーン分析																																			

c経済産業省

アブリケーション スペシャリスト		研修コース群	I 型 本 1		基本2			システム開発基礎		リー ダシップ 基礎	コミュニケー ション基礎	ネゴシエー ション基礎	i i	システム 会計	またま 人村 多	・ ステム ・ ステム ・ ステム ・	ストリ業	システム要件定義技法	ロジ カーマネシメント 基礎 カーマイングメソド	ジェクトマネジメ	ブリケーションスペーション ロッストのコミュニベ	ション ションスペープリケー ションスペープリケー ションスペー	新向	ション動向	新ピジネス助	コミュニティ舌肋 要素技術基礎				要素技術上級			システム設計上級	テム構築上級	/ /	テム開発メソドロバッケー ジ基礎	ッケー ジ製
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	バーソナルスキル入門	- 「エンジニアの基礎	1 1 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	タベースの基礎	ネットワー クの基礎	IJ	リー ダシップ 基礎	コミュニケー ション基礎	ネゴシエー ション基礎	ステム設計の基礎(業種共通)	主要アプリケーション設計 (インダストリ)	要アプリケーシー	システム環境がシステム運用/保守	基礎インダストリ		ロジート基礎・エクトマネ	プロ プシャン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイ	アプリケー ションスペ シャリストのコミュニ	ストのネ	新技術動向	ション動向	新ピジネ	要素技術基礎	技術・フォームの要素	技術・サームの原素	9	ネットワー クの要素技術	ステムと	キュリティの要素	業務システム設計上級	業務システ	上級業務システム運用/保		y y
知的資産管理 (Knowledge Management)活用		知的資産の管理と活用 知的資産のデータペース化(付加価値、構造化、共有化) ・知的資産のが一タペース化 ・知的資産の維持・管理 ・必別果の把理と改賞の実施 ・どジネスモデル特許 ・ンサルティング技術の活用 ・仮設設定																																	_		
コンサルティングの実施		- データ収集 - インタビューの実施 - セッションの連営 - データ分析 - 検証 - スミュニケーションとネゴシエーションの実施																																			
コンサルティングの実施		・報告書の作成 顧客リレーション ・顧客リレーションの確立、維持																																			
	汎用業務システム構築(人事・ 会計・総務等)	業務環境 - 業務別事業環境 - 社会環境の把握と活用 - 業務別開連法規制の把握と活用 - 業務別規制状況																																			
	汎用業務システム構築(人事・ 会計・総務等)	・ (債留の把握と活用 汎用業務内容、特性の把握と活用 ・業務別標準技術の把握と活用																																			
	汎用業務システム構築(人事・ 会計・総務等)	汎用業務最新動向 ・業務別最新動向の把握と活用 ・業務別システム導入事例の把握と活用 汎用業務アプリケーション設計																													igdash				_	\downarrow	
	汎用業務システム構築(人事・ 会計・総務等)	- 業務別関連技術情報の把握と活用 - 業務別最適プラトフォーム選定 - 業務別アブリケーション設計の実践 - インダストリ知識																													_				_	\perp	
	汎用業務システム構築(人事・ 会計・総務等)	・インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用・インダストリ級有アプリケーションに関する知識の活用・インダストリの高い。 技術動向、接合社双の把握・インダストリ別事業環境の把握に活用・インダストリ別事業環境の把握に活用・インダストリ別事業では、日本の記憶に活用・インダストリ別事業である。																																			
	インダストリ固有業務システム 構築	・インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用 インダストリロラインのでは関する知識の活用 ・インダストリビジネス動向。技術動向、建合状次の把握 インダストリ服態、関連法拠の地理に活用 ・インダストリ別事業環境の把握に活用 ・インダストリの日本では、アインダストリの日本のとは ・インダストリの日本学校内容の把握に活用																																			
	1プダストリ回 有業務システム 構築	インダストリアプリケーション設計 最適プラットフォーム選定 ・インダストリアプリケーション設計の実践 業務パケーン最新動物の 業務パケーン最新動物の把握 ・競合製品状況の把握と活用 場入事例の把握に活用 環系パケーン設計																																	+	+	
	務システム構築 業務バッケージを活用した業	- 最適業務(バッケージ選定 業務(バッケージ機能および制約事項の理解 - 業務(バッケージ週用範囲の設計 - 業務(バッケージ週用可配列型の実践 - 業務(バッケージカス)マイズ工数見積の実践 - 業務(バッケージを利用したアブリケーション設計の実践 要素(バッケージを報用とアブリケーション設計の実践																																	_	_	
	務システム構築 業務パッケージを活用した業 務システム構築	・歌週ノフットノオーム、ヘンタ選定の美政 業務パッケージ導入 ・パラメータ設定																																			
	務システム構築	業務パッケージパフォーマンスチューニング ・パフォーマンスチューニング手法の活用と実践 (トレース、デバッグ、問題判別、問題解決、アクセスパスイン デックシング手法etc.)																																			
	務システム構築 業務パッケージを活用した業 務システム構築	業務バッケージ固有開発手法 ・業務バッケージ固有の開発手法の活用と実践 業務バッケージ固有開発支援ツール ・業務バッケージ固有の開発支援ツールの活用 業務バッケージコグラミング ・業務バッケージ固有例発音語、4GLプログラミングの実践																													_				+	+	
	務システム構築 業務パッケージを活用した業	※務パッケージ内容 ・業務パッケージ内容																													-				_	_	_
リーダーシップ	務システム構築	リーダーシップ ・リーダーシップ の基本や原則の把握と実践 ・チームワークこ3ミュケーションの実践 ・プロジェクト目標の設定 ・プロジェクト目標の設定 ・プロジェクトの維進 ・プロジェクトの実行 ・プロジェクトの実行																																			
		- チームメンバの連携 - チームメンバの動機付けと達成感の提供 コミュニケーション(2Way) - 対話およびインタビューの実施																													-				+	+	+
コミュニケーション		- 意思接通 - コミニケーション手法の活用と実践 - 効果的な話し方、聞き方の実践 - コミュニケーション (情報伝道) - ブレゼンテンョン 技術の活用と実践																																	_	+	
コミュニケーション		- 公式および非公式文書の作成 - 文書表現および表現力の活用と実践 - メディア選択 - 説得技法の活用と実践																																			
コミュニケーション		コミュニケーション (情報処理) ・ 状況対応能力の育成、実践 ・ 状況対応能力の育成、実践 ・ オンスエーション ・ エータング 連接技術の活用と実践 ・ オブシェーション ・ 交渉プロセスの把握と実践 ・ 効果的な交渉技法の活用と実践 ・ 情報関係の確立																																	_	_	
ネゴシエーション		- 目標の設定 - 共通利益 - 論理的思考の実践 - 問題解決手法の活用と実践 機合な事管理																																			
統合マネジメント		- 変更管理 - 構成管理 - 構成管理 - プロジェクト進捗評価基準の活用と実践 - プロジェクト計画書更新版の策定															Ш																				
統合マネジメント		プロジェクト計画の実施 - 一般的な管理ストルの活用と実践 - プロジェクトマネジメントツールの活用 - 承認プロセスの恐懼 - 進捗管理会議運営 - 超越の手続きの把握 - プロジェクト計画の策定																																		<u> </u>	
統合マネジメント		- ブロジェクト計画メソドロジの活用と実践 - ブロジェクトマネジントツールの活用 - ブロジェクト計画書の策定 ブロジェクト開始												1																	-				\downarrow	\downarrow	4
スコープマネジメント		- ブロジェクト憲章の策定 - ブロジェクトマネジャの選定と任命 - 制約条件、前提条件の把握 スコープ計画												\perp																	1				\downarrow	\downarrow	\parallel
スコープマネジメント		・スコーブ記述書の策定 ・スコーブマネジメント計画書の策定 スコープ定義 ・WBSの作成			+									+	+		+														+				+	+	+
スコープマネジメント		・スコープ記述書更新版の策定 スコープ検証 スコープ変更管理 ・スコープ変更												+																	+				+	#	+
タイムマネジメント		・ベースライン文書の改訂 作業定義 ・作業の個分化、詳細化 ・作業項目リストの作成 ・WBS更新版の作成												\dagger	\dagger																					+	+
タイムマネジメント		作業順序設定 -PDM/Precedence diagramming method) -ADM/Arrow diagramming method) -Conditional diagramming method -プロジェクトネットワーク図の作成 -作業項目リストの作成																																			
タイムマネジメント		作業所要時間見積 ・所要時間見積 ・作業項目リストの作成 スケジュール開発と管理																																	1	1	
タイムマネジメント		- 数学的分析(Critical Path Method, PERT等) - 所要時間の短縮 - ジミュレージョンの実施 - プロジェクトス・メントツールの活用 - プロジェクトス・ケジュールの作成 - スケジュールス・ネジン・ト計画圏の作成 - スケジュールス・ネジン・アン・スケジュールス・スケジュールス・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・																																			
コミュニケーションマネジメント		コミュニケーション計画 ・コミュニケーション要件の把握 ・コミュニケーション技術の活用と実践													İ																				1	1	
コミュニケーションマネジメント		情報配布 - コミュニケーションスキルの活用と実践 - 情報配布方法論の活用と実践 実績報告 - 進渉検証 - 予実分析												+	+																<u> </u>				+	+	+
		・ ア夫カロ・ ・傾向分析 ・ Earned Value分析 ブロジェクト完了手続 ・ プロジェクト実嫌報告												+	+												-				+				+	+	+
コミュニケーションマネジメント リスクマネジメント		・プロジェクト報告書の作成・プロジェクトプレゼンテーションの実施リスクマネジメント計画策定												\downarrow			\blacksquare														1				\pm	\downarrow	$ \downarrow \downarrow $
リスクマネジメント		リスク風耐 ・海科分析 ・海科の振り ・情報収集技術(プレインストーミング、インタビュー、SWOT分 材のご用と実践 ・「仮設分析 ・ダイアログ技術の活用と実践 定性的リスク分析 リスク発生機を必要を																																	+	+	+
リスクマネジメント		・リスク発生頻度と損害の大きさによる分析 ・リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分																					1													\perp	

3/4

c超消産業省

アプリケーション スペシャリスト		研修コース群	I 理 本 1	Z	丁 基本 2		ĺ	システム網発基差	リーダシップ基礎	コミュニケー ション基礎	シエー ション基礎		システム設計		テム構築	公重 用 / 呆 守	インダストリ業務知識のシステム要件定義技法	サルティン	基礎ェクトマ	ブットのリー ダシッアブリケー ションスペ	ケーション シャリストのコミュニ アプリケーションスペ	ション ションストのネゴシエー	術	ション動向	最新ビジネス動向	コミュニティ活動	要素技術基礎			要素技術上級			システム設計上級	ム構築	テム重用/呆守上	ム開発メソドージ基礎	バッケージ
職種共通スキル項目	専門分野固有スキル項目	研修コース名 知識項目	工工入門	ルスキ	- 「エンジニアの基礎プログラミングの基礎	リケーショ	タベー スの	ネットワー クの基礎	セキュリティの基礎リー ダシップ基礎	1 5	シエーショ	システム設計の基礎		計(インダストリ) 主要アプリケーション設	ム I I I I I I I I I I I I I I I I I I I	公 重 用 / 呆 宁	インダストリ業務知識のシステム要件定義技法	ルティング	基礎エクトマネ	ブシャリストのリー ダシッアプリケー ションスペ	ケーションシャリストのコミュニシャリストのコミュニ	ションシャリストのネゴシエーシャリストのネゴシエー	新技術	ション動向インダストリアプリケー	最新ピジネス動向	コミュニティ活動	要素技術基礎	行ラ 体	テ ム 管	タペーフ	ステニカン のと	コッティの要素	業務システム設計上級	務システム構築ト	務システム運用/ジ	業務システム開発メソド	務バッケー
リスクマネジメント		定量的リスク分析 ・情報収集技術(インタピュー)の活用と実践 ・重大性分析 ・デションリンの実施 ・ジョン・ションの実施 リスク対応計画																																			
リスクマネジメント		- 許容 ・回避 ・軽減 ・受容																																			
リスクマネジメント		リスク監視とリスクコントロール ・プロジェクトリスク対応監査 ・定期的なプロジェクトリスク検証 ・Earned Value分析																																			
コストマネジメント		資源計画 ・資源計画の検討と策定 ・代替案の定義 コスト積算																																			
コストマネジメント		・トップダウンコスト見積の実施 ・ボトムアップコスト見積の実施 ・見積ツールの活用と実践 ・コスト見積方法論の活用と実践																																			
コストマネジメント		予算設定 ・予算設定 ・予算設定ツールと技術の活用と実践 ・コストベースラインの作成																																			
コストマネジメント		コストコントロール ・コスト変更管理の実施 ・進捗状況評価基準の把握、実践 ・EVM(Earned value management)の活用と実践 ・コストコントロールツールの活用と実践																																			
品質マネジメント		品質計画 ・ベネフィットコスト分析 ・ベンチマーキングの実施 ・フローチャートの活用と実践 ・品質に関するコスト管理																																			
品質マネジメント		品質保証 ・品質計画 ・品質計画 ・品質計画 ・品質監査 ・ツールと技術の活用と実践																																			
品質マネジメント		展開コントロール・監査 ・コントロールチャートの活用と実践 ・コントロールチャートの活用と実践 ・バレート図の活用と実践 ・統計サンプリングの実施 ・フローチャートの活用と実践 ・傾向分析																																			
組織マネジメント		プロジェクト組織計画 ・人材業務の実践 ・組織論の実践																																			
組織マネジメント		要員調達 ・要員計画の策定 ・採用業務の実施 ・ネゴシエーション ・調達																																			
組織マネジメント		チーム体制化 ・チーム構成作業の実施 ・一般的な管理業務の実施 ・適材配置の実践 ・チーム育成																																			
調達マネジメント		調達計画 ・内製外製の分析 ・契約形態の選択 ・調達計画書の作成																																			
調達マネジメント		引合計画と引合 ・調連文書の作成 ・調価基準の設定 ・ブロボーザルの受理																																			
調達マネジメント		発注先選定 契約管理 ・契約業務の理解																																		+	\blacksquare
調達マネジメント		来町9年 ・契約業務の理解 ・契約の条件の確認と合意 ・契約の締結 ・例外事項の処理 ・外注とOEM契約業務の理解 ・関連法規の理解と遵守																																			

4/4 c経済産業省